

演題番号 茨城県における基本健康診査及び特定健康診査の経年変化

○ 澤田宜行¹⁾、栗盛須雅子^{1, 2)}、山田大輔¹⁾、西連地利己^{1, 3)}、大田仁史¹⁾

¹⁾ 茨城県総合健診協会茨城県立健康プラザ、²⁾ 茨城キリスト教大学看護学部、

³⁾ 獨協医科大学公衆衛生学講座

【背景と目的】 地域において健康増進計画を策定し、生活習慣病予防対策を行うことは重要であり、茨城県でも「健康いばらき 21 プラン」を策定している。そのような中、健診データを活用した分析を行い、目標値の設定や評価が必要である。

本研究では、茨城県の健診データから年齢調整有所見率の経年変化を示し、健康施策の評価に活用できる基礎資料を得ることを目的とした。

【方法】 茨城県の基本健康診査及び特定健康診査のデータを基に、1993 年度から 2010 年度までの①喫煙（問診に「はい」と答えた人）、②肥満（BMI \geq 25）、③高血圧（収縮期血圧 \geq 140mmHg、拡張期血圧 \geq 90mmHg、高血圧治療中のいずれか）、④糖代謝異常（空腹時血糖 \geq 126mg/dl、非空腹時血糖 \geq 200 mg/dl、HbA1c \geq 6.1%、糖尿病治療中のいずれか）、⑤中性脂肪高値（中性脂肪 \geq 150mg/dl）の年度別・性別の年齢調整有所見率を直接法により算出した。

【結果】 1993 年度、2010 年度の年齢調整有所見率は年度順に、男女の糖代謝異常（男性 8%、10%、女性 4%、5%）、男性の肥満（31%、35%）、女性の喫煙（5%、11%）は、増加傾向にあった。男性の喫煙（52%、36%）、女性の肥満（29%、21%）、男女の高血圧（男性 45%、35%、女性 35%、23%）、男女の中性脂肪高値（男性 42%、37%、女性 28%、17%）は減少傾向にあった。

【考察】 男性の肥満や女性の糖代謝異常の増加傾向は、平成 22 年国民健康・栄養調査と同様の結果であり、全国的な傾向である。都道府県別にみた男性の肥満の割合は、高いほうから

22 番目である。しかし依然として茨城県は男女ともに脳血管疾患、急性心筋梗塞、糖尿病の死亡率が全国と比較して高い傾向にあり、生活習慣病に対する保健指導をより強化することが求められる。さらに、生活習慣病の有所見率を低下させるためには、目標値を設定し、根拠に基づいた改善策を策定・実施し、評価を行う必要がある。

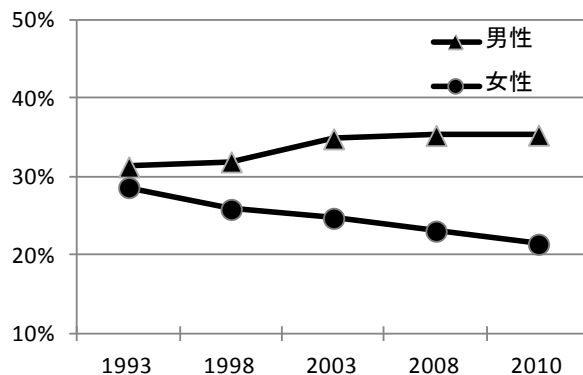


図1 肥満

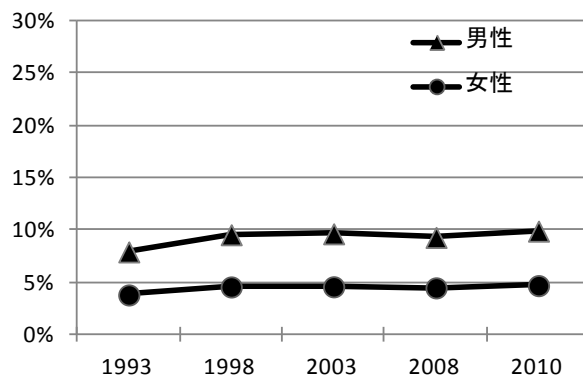


図2 糖代謝異常

(連絡先) 澤田宜行
茨城県総合健診協会茨城県立健康プラザ
Email : n-sawada@hsc-i.jp